

後谷湿地再生検討分科会 第6回会議 概要

日時：日時:2024 年 10 月 9 日(水)15:00~17:00

参加者：13 人 傍聴者なし

開催方法：ウェブ会議システム（ZOOM）

次第

1. あいさつ

2. 議事

(1) 湿地復元図(修正案)について

3. 次回以降の日程と内容の確認要点

要点

第6回後谷湿地再生検討分科会では、復元工事の現場状況が報告され、土砂撤去の進捗や発見された課題について議論された。湿地復元プロジェクトの設計変更が説明され、分土工の追加や畦畔の配置変更など主な変更点が示された。希少植物の保護計画や法面の処理についても検討が行われ、今後の詳細な調整の必要性が確認された。

- ・ 分科会会長：22日の現地視察で染み出し水の量を測定する調査を行う。
- ・ 分科会会長：現地視察の詳細な内容と準備物について参加者に事前に連絡する。
- ・ 分科会会長：次回分科会の日程を調整し、参加者に連絡する。
- ・ 分科会会長：中池見保全活用協議会に分科会の活動報告と今後の維持管理計画について提案する。
- ・ 鉄道・運輸機構：畦畔の位置や水路の蛇行について、現地調査結果を踏まえて設計を見直し、分土工の構造については湿地側への導水部分の高さ調整を検討する。
- ・ 鉄道・運輸機構：法面の植生工について、示された施工方法で準備を進める。
- ・ 会員：小規模な川での直線水路を曲線に直した事例を収集し、分科会会長に送付する。

要約

復元工事の現場では土砂の撤去が進み、水が染み出している箇所や大きな木材が発見されており、これらの扱いについて検討が必要とされている。10月からノジコの調査

が始まり工事が一時停止することになっているが、22日に予定されている現地視察で参加者は直接状況を確認できる見込みである。

湿地復元の設計変更

主な変更点として分土工の追加と畦畔の配置変更を挙げている。分土工は基幹水路から湿地への水量調整を可能にし、畦畔と水路の配置変更はより多様な湿地タイプの実現を目指している。また、希少植物の自生地を保護する計画や、法面の処理についての議論も行われ、今後の詳細な調整の余地が残されている。